

第2回 さいたま市立大宮北小学校 学校運営協議会 議事録

1 日時 令和4年10月5日(水) 11:00~12:00

2 会場 大宮北小学校 教育相談室

3 参加者

榊原 靖之 (本校チャレンジスクール実行委員長)
小川 武子 (大宮交通安全協会副会長)
瀬野尾 栄子 (大宮北部地区 主任児童委員)
立入 健司 (青少年育成さいたま市民会議氷川地区会会長)
吉田 弘一 (さいたま市立大宮北公民館長)
福田 雄亮 (本校 PTA 会長)
山崎 祥子 (本校 PTA 副会長)
大槌 枝里子 (本校 PTA 副会長)
一色 秀哉 (本校ダディーズクラブ代表)
渡辺 明 (本校校長)
細井 博幸 (本校教頭)
木村 元基 (本校教務主任)
菊地 豊 (本校学校地域連携コーディネーター)

欠席者

富田 英雄 (さいたま市立大宮北中学校長)

4 議事

(1) 校長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 9月までの本校の状況について

・子どもたちの様子及び学校行事について(校長)

1・2学期の学校行事の実施状況、リフレッシュ工事による変更点、本校における新型コロナウイルス感染防止に向けた対応について説明を行った。また、今後の課題として、①教科担任制、②さいたま市 STEAMS 教育、③GIGA スクール、④SDGs、⑤働き方改革、⑥感染症対策を挙げ、それぞれの状況を説明するとともに、子どもたちにプラスになることを学校として吟味し進めていくことを伝えた。

・リフレッシュ工事の現状と今後について等(教頭)

本年度より本格着工となり、令和6年度まで続くリフレッシュ工事の内容と学校教育活動の制限について説明を行った。また、学校 Web ページによる積極的な情報発信の状況と、学校運営協議会の活動についても特設ページを作成し、情報発信をしていくことを説明した。

(4) 全国学力学習状況調査の結果について(教務主任)

本校と県、全国との比較を行い、いずれの教科においても良好な結果となっていることを項目ごとに説明を行った。また、児童質問紙についても、「自分には、よいところがあると思う。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれる。」「将来の夢や目標を持っている。」「学校に行

くのは楽しい。」「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」などの項目において、県、全国平均を大きく上回って良好な回答が見られてことについて説明した。

一方、課題としては、読書時間、読書好きの児童の割合、国語の勉強への意欲などが挙げられ、この結果を受け、本校教職員にどのような指導を行ったのか説明した。

(5) SSN との連携について（教頭・学校地域連携コーディネーター）

・SSN（スクールサポートネットワーク）の活動状況について

チャレンジスクール・防犯ボランティア・読み聞かせボランティア・KDC（北小おやじの会）のこれまでの実施状況について説明を行った。また、課題についても取り上げ、この後の熟議で検討していただくよう伝えた。

・本校教職員アンケート結果

9月に実施した本校教職員が必要と感じているボランティア活動に関するアンケート調査の結果について説明を行った。授業補助、ゲストティーチャー、安全に関する希望が具体例とともに多く寄せられていた。

・SSN の今後の活動について【熟議1】（進行：教頭）

4グループに分かれ、今後のボランティア活動の在り方について熟議を行った。

【Aグループ】

- ・学習補助ボランティアについては、配置を工夫するなどして実施は可能ではないか。
- ・学級に保護者が入ることについては、それほど抵抗感はないが、教員の指導にアジャストできることが大切だと思う。
- ・体育振興会が、昔遊びの指導をしたりする事例が多く、外部組織とのつながりを意識して進めていくべきである。

【Bグループ】

- ・何世代にも渡り住む人が多い地域ではあるが、子ども会が廃止され、地域の集まりが少なくなっている現状もあるため、家庭の取組にプラスできる地域の行事は有難い。
- ・しがらみなく、各自が申し込みボランティアに取り組みめるようなシステムがあるとういのではないか。例えば、学校安心メールでの呼びかけ、Formsでの集約など。

【Cグループ】

- ・防犯ボランティアの充実が必要であり、下校時等、危ない場面が見られる。
- ・ボランティアを行う上では、集める工夫が必要である。

【Dグループ】

- ・アンケート結果から先生の忙しさが伺えるが、地域の方等いろんな人を巻き込んで授業を行うことはよいことであると考えます。
- ・ゲストティーチャーやボランティアの方が、どんなことが協力できるのか、ニーズを集約することが大切なのではないか。
- ・土手一丁目、大宮警察署が移転し、草地となり防犯上心配である。
- ・防犯ボランティアの数も少なく、課題と感じている。

以上の内容については、10月25日に実施するSSN協議会にて議題とし、今後のボランティア活動の取組充実につなげていく。

(6) 次年度学校運営方針に向けた、目指す児童像【熟議2】(進行：教頭)

次年度の学校教育目標及び経営方針、努力点を作成するために、目指す児童像について熟議を行った。昨年度の準備委員会で挙げた意見をどのように学校教育目標等に反映されているかの資料を提示し、熟議を行った。

【Aグループ】

- ・感謝のできる子
- ・みんなで楽しむこと
- ・家庭も地域も「みんなで楽しむ」という意識で活動に加わることで、負担感の少ない、持続性のある活動ができるのではないか。

【Bグループ】

- ・思いやりのあるやさしい子
家庭として、子どもをまずは認めてあげることが大切に
学校として、自分の意見を言う力を付けられる指導を
地域として、様々な人と出会うつながりの場を

【Cグループ】

- ・仲良く認め合える子
- ・元気に遊び、あいさつのできる子
家庭として、子どもに寄り添い、安心できる場所となるように
学校として、互いを認め合えるように
地域として、見守りができるように

【Dグループ】

- ・グローバルとローカル性をともにはぐくむ中で、「互いに認め合える子」になって欲しい。
そのために、家庭は、それぞれの時期の子育てを楽しんでほしい
そのために、学校は、様々な人材や地域の特性を生かす上で、開かれた学校でいてほしい

(7) 諸連絡

次回の日程、内容、目的等を伝え閉会とした。

記録(教頭)